

昭和 62 年度

# 秋田県環境技術センター年報

第 15 号

(1987)

秋田県環境技術センター

## は　じ　め　に

昭和62年度の事業概要と調査、研究の結果を年報第15号としてとりまとめましたのでお届けします。

一年間の業務の調査報告、研究報文を中心に編集したわけではありますが、昭和62年度は降雪成分に関する調査研究や自動車の排ガス、スパイクタイヤによる粉じんの実態調査等大気関係にかかわる調査研究をはじめ、八郎湖における水質汚濁調査や有害物質の実態調査等水・土質関係全般にわたっての調査研究を行ったところであります。

最近の環境保全対策は、かつての高度経済成長期のように公害の防止に主眼を置いた時代から、`公害の予防、へと変遷を遂げ、それに伴って公害・環境行政もこれまでのように公害の具体的な事案の実態調査的なものから、環境汚染機構の解明や将来の予測、評価等、より積極的に県民のニーズに対応しなければならない新たな局面を迎えております。

県民のもとめる「健康で暮し良い生活の実現」は、環境行政に与えられた永遠の課題でもあります。

特に、本県は祖先から受け継いだ豊かな自然に恵まれており、この貴重な財産を後世に伝えることが私たちの責務であります。

当環境技術センターは環境保全の使命に向って、所員一同一丸となって研究に励んでまいりたいと考えております。

本所報をご高覧戴くと同時に、ご批判、ご指導を賜れば幸と存じます。

平成元年 3 月

秋田県環境技術センター

所 長 小 松 良 悦